

にがうり

【特徴】

原産地は、東インド、アジアの熱帯地方で、ツルレイシとも呼ばれており、日本では沖縄、南九州地方を中心に栽培されている。生育適温は15～28℃で暑さに非常に強い。

【作型と品種】

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主な品種
露地						○	○	—	—					さつま大長いし、太れいし(緑色種) 白れいし(白色種)

【作り方】

1. ほ場の準備

定植の3週間くらい前に、堆肥、苦土石灰、基肥を散布し耕起する。幅2mのうねをつくり、雨が降って土が十分に湿ったときに黒マルチをする。

2. 育苗

深さ10cm程度の箱（発泡スチロールの場合は底にあなを開ける）に砂を詰め、種をまく。たねを一昼夜水につけておいてまくと発芽が良い。
発芽が揃ったら9cmのポリポットに市販の床土を詰め鉢上げし、本葉2～3枚まで育苗する。徒長しやすいので水やりをやや控えめにし、鉢の間隔も広く取る。

3. 栽培管理

定植

地温が15℃以上になったらうねの中央に50cm間隔で植え穴をあけ、たっぷり水をやった後、鉢土が少しのぞく程度に浅植えする。

支柱立て

つるが伸び始めるまえに2m程度の支柱を立て、きゅうりネットを張る。

仕立て方

親づるは5節で摘心し、子づるを2本選んで伸ばす。

追肥・水やり

追肥はつるが1mくらいになった頃から行い、1か月に1回程度の割合で施す。

にがうりは過湿に弱く、乾燥にはわりあい強いほうなので過度のかん水はさける。

【病害虫の防除】

主な病気はべと病、うどんこ病などである。多湿条件でやすい。害虫はカメムシ、アブラムシ、ヨトウムシなどの発生がある。

【収穫】

種まきから収穫までの日数は100～120日で、短形種では150g程度、長形種では200～300g程度で収穫する。

過熟させると商品価値が落ち、草勢にも悪い影響を与える。